

四万十市産業振興計画 アクションプラン進捗管理シート

【令和3年度（上半期）】

1	連携分野	1
2	農業分野	6
3	林業分野	11
4	水産業分野	14
5	商工業分野	16
6	観光分野	19

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
連携分野					
1 地産地消の促進					
1. 地域産品の利用と販売促進					
【連携AP1】					
(1) 地域産品の利用と販売促進					
<ul style="list-style-type: none"> ○地元消費拡大フェアの開催 《農業14、林業15、水産12、商工4》 ○地元農畜産物の公共施設での利用促進 《農業14、18》 ○有機農産物の流通促進 《連携8、農業16》 ○木造住宅建築への支援《林業14》 ○木材流通ネットワークの構築とコーディネート組織の設立 《林業13、14》 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化 《林業15》 ○林地残材等の搬出の促進 《林業16》 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進 《林業17》 ○漁協の販売機能の強化 《連携8、水産11》 	<ul style="list-style-type: none"> ○西土佐地域産業振興推進協議会（アツイまちサミットコラボ事業） ・道の駅ナスフェスで米ナスPR ・西土佐地域12店舗で米ナスの新メニューを開発 ・ガブっと米ナスキャンペーン（8月中、西土佐地域12店舗参加） ・米ナスPRチラシ作成、レシピチラシ作成、HP作成 ○西土佐地域地産地消推進協議会（4、6、7、9月） ○市産材利用促進事業 申請件数：30件（見込） ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施 宿泊者：21組、延べ107名 見学者：35名（7月末現在） ○文化複合施設整備事業での市産材の利用・PR 市産材の利用予定量：762.83㎡（丸太材積） （大ホール、小ホール、屋上デッキ、交流スペースなど） 工期：R3/6/30～R5/6/30（木質工事はR4/7頃から） ○林地残材の搬出促進 バイオマス証明書発行5件 ○地産外商活動（新型コロナの影響で減少） （実施主体：四万十川西部漁業協同組合（あゆ市場）） ・天然鮎の高付加価値化 活鮎の豊洲市場出荷（6月） ・イベント出店等 6月 れんげいこうちTSUNAGUマーケット出店（高知市） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業 ・旬の産品フェアを毎月開催 ○西土佐地域地産地消推進協議会（11月、2月） ○市産材利用促進事業（事業継続） ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施（事業継続） ○林地残材の搬出促進（事業継続） ○フェア等への参加 10月 高知もくもくエコランド2021森林環境学習フェア （出店：四万十ヒノキブランド化推進協議会） ○地産外商活動（新型コロナの影響で減少） （実施主体：四万十川西部漁業協同組合（あゆ市場）） ・全国交流物産展in新橋（東京、10月） ・フェスティバル土佐ふるさとまつり（高知市、11月） ・枚方市友好都市物産展（大阪、11月） ・高知大丸冬の味覚祭（高知市、12月）春の味覚祭（高知市、3月） 	四万十市 （農林水産課・観光商工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆産業祭来場者数 H30:20,000人 → R6:40,000人/5年 H31:3,000人 R2:中止 ◆学校給食への市内農産物（野菜類）の供給率 H30:39.18% → R6:50% H31:45.7% R2:36.9% ◆市産材利用促進事業の着工件数 H27-H30平均:27.3戸/年 → R6:30戸/年 H31:41戸/年 R2:32戸/年 	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域産品への関心と利用意識が高まっている ◆漁業協同組合の販売機能 R6:強化
【連携AP2】					
(2) 地域産品の販売拠点づくり					
<ul style="list-style-type: none"> ○市内量販店等を拠点とした販路拡大 《農業14》 ◎新たな拠点（旧土佐銀行跡地）による情報発信の強化と賑わいの創出 《連携8、商工10》 ○拠点施設間での連携 《商工10》 ○直販所の拠点機能の強化 《農業15》 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充 《連携8、農業15、商工18》 ○拠点ビジネスの推進 《商工18》 ○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興 《商工5》 	<ul style="list-style-type: none"> ○商店街活性化モデル事業（実施主体：中村商工会議所） 5月 公家行列及び地域産品の販売PRを支援→コロナにより中止 ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業 ・毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 ・商店街広報誌、街のポータルサイト制作 ・地域おこし協力隊の配置（中心市街地活性化1名）R3.10～継続 ・中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金（1,925千円） 4月 1周年イベント「春のビアガーデン」 8月 子供向けイベント「こともtoナイト」 中心商店街地活性化協議会開催 9月 第71回高知県芸術祭オープニングイベント ○地域おこし協力隊事業 ・中心市街地活性化 ・まちなか景観形成 ○集落活動センター事業（大宮集落活動センターみやの里） 4月～ 軽食・配食サービス、弁当販売（加工販売部会） ○直販所の拠点機能強化 4/10 JAグリーンランドオープン（JA高知県） 売り場面積旧施設の1.5倍、イトイン完備、2F調理室 ○新食肉センター整備推進事業 ・庁内検討委員会（4月） ・新法人設立準備（県、県企業支援センター 庁内関係部署と協議）（5月～） ・関係業者へと畜方式等検討依頼（6月） ・県協議（と畜方式、経営シミュレーション）（7月） ・整備費用負担について県協議（8月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域商社「榊西土佐ふるさと市」を核とした地域創造事業【再掲】 ・旬の産品フェアを毎月開催 ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業 11月以降 中心商店街活性化協議会開催 ○地域おこし協力隊事業（継続） ・中心市街地活性化 ・まちなか景観形成 ○集落活動センター事業（大宮集落活動センターみやの里） ・事業を継続 ○新食肉センター整備推進事業 ・庁内検討委員会（10月以降、適時） ・新食肉センター整備検討委員会（10月） ・関係業者担当者会議、庁内関係部署検討会議、政策会議 ・新法人設立準備 ・整備費用負担について県協議（10月以降、適時） ・基本設計、施工方式についての協議・調整 	四万十市 （企画広報課・農林水産課・観光商工課・産業建設課） 関係団体・組織 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆商店街通行者数（平日） H27～H30平均:5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日 ◆農林水産物等直販所販売額 H29:13億1,200万円 → R6:15億円 H30:13億100万円 H31:13億4,800万円 ◆道の駅「よって西土佐」入込客数 H30:18万6,924人 → R6:20万人 H31:18万9,729人 R2:15万6,012人 	<ul style="list-style-type: none"> ◆市内の様々な販売拠点において、地域産品の利用、販売が促進されている。

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
連携分野					
2 地産外商の推進					
1. 商品開発と磨き上げ					
【連携AP3】					
(1) 地元農畜産物を使った商品開発					
<ul style="list-style-type: none"> ○戦略品目のブランド化 《農業16》 ◎40010日プロジェクト 《農業16》 ★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進 《農業16》 ★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興 《農業16、商工18、観光4》 ○地元農畜産物を使った商品の開発 《農業17》 ○意欲的な生産者への支援 《農業17》 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶしゅかん普及推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド化確立等業務委託（四万十ぶしゅかん生産者組合） ・地域おこし協力隊配置（9/1～、販促・PR業務など） ○ぶしゅかん栽培現地検討会 4月～ 栽培管理指導、巡回指導 ○栗暮プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・栗園モデル事業、苗木補助、平場新植推進 ○露地作付面積日本一マイナスを活用した地域活性化事業 (西土佐地域産業振興推進協議会) <ul style="list-style-type: none"> ・マイナスPRチラシ作成、レシビチラシ作成、HP作成 ○しまんと100年 40010日プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・具同小学校でしまんと農法米の学習等 ・プロジェクトロゴの活用拡大（7/8:5 類型を追加商標登録） ○養豚場候補地の選定（4月、7月、8月） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ぶしゅかん普及推進事業 <ul style="list-style-type: none"> ・新規定植（苗代への補助） ・有害鳥獣対策用防護柵（設置費補助） ○ぶしゅかん栽培現地検討会 <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続 ○栗暮プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続 ○しまんと100年 40010日プロジェクト <ul style="list-style-type: none"> ・事業を継続 ○養豚場候補地の選定（随時） 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) JA高知県 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha R2:13.0ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t H31:21.2t R2:26.7t ◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha H31:44.0ha R2:44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均:431.5t/年 → R6:445t H31:432.0t R2:541.0t ◆マイナス栽培面積 H30:504a → R6:490a H31:421a R2:452a ◆マイナス生産量 H30:260t → R6:359t H31:277.5t R2:274.1t ◆一次産品等を活かした新商品の開発（農畜産物加工品以外を含む） H30:117行ム → R6:307行ム/5年 H31:127行ム R2:117行ム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆四万十ブランドの確立や加工商品開発による高付加価値化が図られ、安定した農業経営につながっている ◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha H31:49.2ha R2:52.2ha ◆栗生産量 H27-H30平均:23.5t/年 → R6:60t H31:19.6t R2:18.3t ◆しまんと農法米栽培面積 H30:10.22ha → R6:20ha H31:15.27ha R2:17.59ha ◆しまんと農法米生産量 H30:33.2t → R6:80t H31:44.25t R2:52.8t
【連携AP4】					
(2) 四万十ヒノキ製品の商品力強化					
<ul style="list-style-type: none"> ○四万十ヒノキのブランド化の推進 《林業18》 ○木材・木工製品の生産拡大・商品力の強化 《林業12、19》 	<ul style="list-style-type: none"> ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊者:21組、延べ107名 見学者:35名（7月末現在） ○四万十ヒノキブランド化推進協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・四万十ヒノキについてパンフレット等でPR ・80ヒノキ（大口径ヒノキ）付加価値化の検討等 ○木工製品の開発 <ul style="list-style-type: none"> ・杉板プランク開発、販売（リハ・ベキュープロジェクト） 	<ul style="list-style-type: none"> ○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・事業継続 ○協働の森づくり（3企業：体験交流、四万十ヒノキPR） 間伐体験：(株)清流メンテナンス、浅野アタカ(株)、日鉄エンジニアリング(株) 	四万十市 (農林水産課) 森林組合 四万十ヒノキブランド推進協議会 製材加工事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆木材・木製品製造品出荷額等 H29:8億496万円 → R6:9億円 H30:8億3,748万円 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「四万十ヒノキ」としての知名度が向上し、ヒノキ製品の生産が拡大している
【連携AP5】					
(3) 水産物の高付加価値化					
<ul style="list-style-type: none"> ○品質管理の向上 《水産9》 ○商品力の強化 《水産9》 ○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携10、水産10》 ○新たな商品の企画・開発の支援 《水産10》 	<ul style="list-style-type: none"> ○生産工程の均一化と品質管理(四万十川下流漁業協同組合) <ul style="list-style-type: none"> ・生産工程マニュアルによるアサ、スジアサリの生産工程の均一化と品質管理を継続 		四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 漁業協同組合 事業者 生産者	<ul style="list-style-type: none"> ◆一次産品等を活かした新商品の開発（農畜産物加工品以外を含む） H30:117行ム → R6:307行ム/5年 H31:127行ム R2:117行ム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆安定した品質が確保され、販売額の増加につながっている
【連携AP6】					
(4) 地域資源を活かした商品開発					
<ul style="list-style-type: none"> ○事業者や地域グループ等の人材育成 《連携8、商工5》 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり 《商工2、16》 ○事業者間のマッチング機会の創出 《商工2》 ○テストマーケティング《商工1》 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域おこし協力隊事業【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興3名配置（富山、大川筋・後川、須崎、大宮、奥屋内地区） ・中心市街地活性化1名、まちなか景観形成1名配置 ・農業振興2名配置（あぐりっこ、西土佐農業公社） ・ぶしゅかん振興1名配置 ○地域グループとの意見交換会等 <ul style="list-style-type: none"> ・大川筋地区:地域農産物(桑の葉、ｲﾄﾞﾘ)等の現況確認、大川筋美楽来の商品検討 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域おこし協力隊事業【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・地域振興3名配置（富山、大川筋・後川、須崎、大宮、奥屋内地区） ・中心市街地活性化1名、まちなか景観形成1名配置 ・農業振興2名配置（あぐりっこ、西土佐農業公社） ・ぶしゅかん振興1名配置 ・地域資源活用1名配置（天体観測:ホテル星羅四万十） 	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆一次産品等を活かした新商品の開発 H30:117行ム → R6:307行ム/5年 H31:127行ム R2:117行ム 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事業者間や地域で協働した商品開発、販路開拓等の取組みが円滑に推進されている

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
連携分野 ○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化 《商工1》 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援 《商工3》 ○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発 《商工16》	○西土佐地域産業振興推進協議会 (アツいまちマツコホリ事業) 【再掲】 ・西土佐地域12店舗で米ナスの新メニューを開発 ○地域産品販売促進事業費補助金 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 ・ホームページ、ECサイト等の作成及び改修 (補助率4/5、補助限度額500千円) ・商品開発及び商品改良等販売促進 (補助率4/5、補助限度額500千円) 交付決定件数3件 (1,488千円) ○名産「ばかたれ」の全国展開事業 (実施主体: 有限会社やまさき料理店) 四万十市産振総合補助金を活用 「ばかたれ」専用の加工場を整備 4~6月: 施設設計、9月: 施工業者選定	○名産「ばかたれ」の全国展開事業 (実施主体: 有限会社やまさき料理店) 四万十市産振総合補助金を活用 10~2月: 施設建築、2~3月: 移転、3月中旬: 操業開始			
【連携AP7】 (5) 滞在型の観光商品づくり					
○観光マーケティングリサーチ 《観光1》 ○観光商品としての検証と磨き上げ 《観光2》 ○観光商品づくり研修会等の開催 《観光3》 ○異業種連携の強化 《観光3、14》 ○周遊観光プランの造成・発信及び販売 《観光5》	○滞在型の観光地づくり (実施主体: 四万十市観光協会) 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり ・観光動向調査 (4月~) 観光協会案内所: 4~7月 1,723人 (内外国人66人) 臨時観光案内所: GW3, 554人、お盆休み: 1,583人 ・レンタサイクルと観光遊覧船御徳セット (継続) ・四万十市クーポン事業受託 (1月~6月) ・修学旅行レンタサイクル受入 (1件、下見1件) ・観光事業者等向けワクチン接種促進 (窓口対応等) 広域連携による周遊観光の推進 ・広域観光クラスター整備計画 (SDGs) (継続) ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (実施主体: 幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会 (1回)、旅行会社招聘 (1回)、SDGsモニターツアー実施 (2回)、 教育旅行受入 (7校済、20校予定、36校中止)、教育旅行下見 (12校)、 教育旅行セールス (山陽~関西方面16社)、観光PRキャラバン (兵庫1回) ・全国ほんもの体験ネットワーク総会 (奈良県) ・カヌーガイド養成講座 (7~9月 計12回) ○四国西南サミット観光部会 広域観光事業の推進、パンフレットの作成等 ○しまんとリバーベキュープロジェクト ・BBQ講演会 (7月)、JBBQA初級検定 (8月) ・BBQ定着、PRコミュニケーションツール作成 ・商品開発ワークショップ ・関係団体との事業協議、先進地研修など ○スポーツツーリズム 5月 ソフトボール一般男子西日本大会打合せ (春野) 8月 高知ファイティングドックス公式戦 (四万十スタジアム) ○四万十市クーポン事業 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 登録数 提携宿泊施設: 34 クーポン券取扱店: 345 1月~6月 クーポン券配布 (5,000円×市内2万泊) 換金実績 500円券177,528枚 88,764千円	○滞在型の観光地づくり (実施主体: 四万十市観光協会) 事業を継続 ・地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり ・広域連携による周遊観光の推進 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (実施主体: 幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会 (5回)、教育旅行セールス (関東方面)、一般旅行モニター ツアー受入、教育旅行モニターツアー受入、クルーズ船モニター ツアー受入、教育旅行受入 (29校)、東京教育旅行説明会 ・四国DC全国宣伝販売促進会議 ・全国ほんもの体験フォーラム (長野県) ・デジタルマーケティングセミナー (4回) ・はた旅クーポン事業 (※コロナ対策事業) クーポン券有効期限 10/末~2/28 5,000円×幡多2万泊 ○四国デザインコンベンション R03.10.1~12.31開催予定 (実施主体: JR四国) ○しまんとリバーベキュープロジェクト ・SCA (BBQ) ジャンボリーしまんと2021 (12月) ○スポーツツーリズム 11月 ソフトボール一般男子西日本大会 (R03.11.13~14) 11月 スポーツ合宿誘致活動 (関東方面) ○西土佐地域産業振興推進協議会 ・モニターツアー企画、開催 (2月)	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 観光協会 四万十市観光振興連絡協議会 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会 幡多広域観光協議会 予土県境地域連携実行委員会 四万十川流域市町村観光振興連絡会 四国西南地域観光連絡協議会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒 → R6:65軒 H30:50軒 H31:48軒 R2:52軒 ◆広域における一般観光客数 H30:118万466人 → R6:64,500人増 H31:1,194,938人 R2:1,004,518人 ◆広域におけるスポーツ客数 H30:17万8,977人 → R6:12,200人増 H31:18万2,587人 ◆広域におけるはた旅体験商品利用者数 H30:20,269人 → R6:24,200人 H31:29,793人 R2:18,036人 ◆広域におけるはた旅体験商品数 H30:101商品/年 → R6:100商品/年 H31:104商品/年 R2:107商品/年	◆多様な実施主体が連携を強め、満足度、リピート率の高い滞在型の観光プログラムを持続的に展開している ◆広域組織における5つの機能 ①商品の企画・立案 ②商品の造成、販売、取扱 ③広報、情報発信、窓口 ④地域の人材育成 ⑤観光産業化 R6:強化

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
連携分野					
2. 情報発信と販路開拓・拡大					
【連携AP8】					
(1) 地域産品の発信と販路開拓・拡大					
◎産業間連携や広域連携による外商活動等 《農業17、林業15、水産12、商工4、8、観光7》 ○商談会等販路開拓・拡大の支援 《農業17、水産12、商工4》 ○一元的な情報発信の促進 《連携9、11、商工4、7、観光7、10》 ○地域の人、もの、コトの発信 《商工17》 ○事業者や地域グループ等の人材育成 《連携6、商工5》 ○有機農産物の流通促進 《連携1、農業18》 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化 《林業20》 ○漁協の販売機能の強化 《連携1、水産11》 ○水産物・水産加工品のブランディングの構築と発信 《水産12》 ◎新たな拠点(旧土佐銀行跡地)による情報発信の強化と賑わいの創出 《連携2、商工10》 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充 《連携2、農業15、商工18》	○地産外商活動(新型コロナの影響で減少) 4月～ 松山大道にて外商活動(西土佐ふるさと市) 4月～ 七駅物語城川ベーコン食べくらべ街道実施(スタンプラリー、愛媛県道の駅との連携) 6月～ 天然鮎の高付加価値化 活鮎の豊洲市場出荷(あゆ市場) 6月 れんけいこうちTSUNAGUマーケット出店(高知市) ○幡多広域地産外商協議会 ・物産PR等継続事業、都市圏等の物産PR等継続事業の実施 ○特産品販売促進事業(商談会出展) 9/29～10/1 ライフスタイルWeek 関西(商談会出展) ○地域産品販売促進事業費補助金(新型コロナ対策事業)【再掲】 地方創生臨時交付金を活用 ・ホームページ、ECサイト等の作成及び改修(補助率4/5、補助限度額500千円) ・商品開発及び商品改良等販売促進(補助率4/5、補助限度額500千円) 交付決定件数3件(1,488千円) ○地域グループとの意見交換会等【再掲】 ・大川筋地区:地域農産物(桑の葉、イドリ)等の現況確認、大川筋美楽来の商品検討 ○四万十鮎ブランド化 ・作業部会の設置準備(四万十川漁業振興協議会) ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 ・毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 ・商店街広報誌、街のポータルサイト制作 ・地域おこし協力隊の配置(中心市街地活性化1名)R3.10～継続 ・中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金(1,925千円) 4月 1周年イベント「春のピアガーデン」 8月 子供向けイベント「こともtonight」 中心商店街地活性化協議会開催 9月 第71回高知県芸術祭オープニングイベント	○地産外商活動(新型コロナの影響で減少) ～3月 松山大道にて外商活動(西土佐ふるさと市) ～12月 七駅物語城川ベーコン食べくらべ街道実施(スタンプラリー、愛媛県道の駅との連携) 10月 全国交流物産展in新橋(東京) 11月 フェスティバル土佐ふるさとまつり(西土佐ふるさと市、あゆ市場など) 11月 枚方市友好都市物産展 12月、3月 高知大丸冬の味覚祭、春の味覚祭 ○特産品販売促進事業(商談会出展) れんけいこうちを活用 ・グルメ&ダイニングスタイルショー秋2021(東京ビッグサイト) ・ビジネスフェア中四国2022 ○四万十鮎ブランド化 ・事業を継続 ○中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 11月以降 中心商店街活性化協議会開催	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆商談会等での成約率 H30:20.8% → R6:25% H31:30.3% R2:46.3%	◆産業間が連携し、多様な外商活動が展開されている ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、地域産品の販売促進につながっている
【連携AP9】					
(2) 観光商品のセールス・情報発信					
○広域連携によるキャンペーンの展開 《観光5》 ○営業力のある人材、組織の育成 《観光6》 ○旅行会社への営業活動の促進 《観光6》 ○旅行商品商談会等への出展 《観光6》 ○海外への営業活動の促進 《観光6》 ○多様な媒体を活用した広報活動の強化 《観光7》	○四国西南地域観光連絡協議会 パンフレット「四国西南の旅」作成、配布 ○四万十川流域市町村観光振興連絡会 流域市町村観光パンフレット作成 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (実施主体:幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会(1回)、旅行会社招聘(1回)、SDGsモニターツアー実施(2回)、教育旅行受入(7校済、20校予定、36校中止)、教育旅行下見(12校)、教育旅行セールス(山陽～関西方面16社)、観光PRキャラバン(兵庫1回) ○滞在型の観光地づくり(実施主体:四万十市観光協会)【再掲】 観光商品のセールス及び情報発信の強化 ・商談会への参加(4月東京) ・デジタルパンフレットの作成 ・Instagramのライブ配信、フェイスブックの充実 ・YouTubeの定期更新(5月、6月、7月)	○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業 (実施主体:幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会(5回)、教育旅行セールス(関東方面)、一般旅行モニターツアー受入、教育旅行モニターツアー受入、クルーズ船モニターツアー受入、教育旅行受入(29校)、東京教育旅行説明会 ・はた旅クーポン事業(※コロナ対策事業) クーポン券有効期限 10/末～2/28 5,000円×幡多2万泊 ○滞在型の観光地づくり(実施主体:四万十市観光協会)【再掲】 事業を継続 ・広域連携による周遊観光の推進	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆観光協会ホームページアクセス数 H30:189,053件 → R6:200,000件 H31:229,214件 R2:162,843件	◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、観光誘客が増加している。 ◆多様な広報・プロモーション活動が展開され、観光誘客につながっている

分野 連携テーマ 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
連携分野 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、11、商工4、7、 観光7、10》 ○ターゲットに合わせたプロモーションの展開 《観光7》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動 《連携11、観光7》	○観光大使設置事業 (現在23名) ・観光大使イベント情報等の情報発信依頼、市特産品を贈呈しPRを強化 ○予土県境地域連携実行委員会 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信 ・サイクルトレイン事業 ○リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～関連 ・4月～川バス、市内循環(四万十トリ)バスの運行 ・メガサップ、タンデムサップ導入(かわらっこ) ・観光ガイドミーティング(2回)、LOILOIしまんと個別勉強会	○西土佐地域産業振興推進協議会【再掲】 ・モニターツアー企画、開催(2月) ○予土県境地域連携実行委員会 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・四万十・南予横断2リバービューライド2021(10月) ※コロナで中止・他の取組検討中			
3. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信					
【連携AP10】 (1) “食”文化の磨き上げ ○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ 《商工6》 ○塩たたきのブランド化の推進 《商工6》 ○魚食文化の磨き上げ 《水産13》 ○未利用資源等の掘起しと利活用 《連携5、水産10》	○塩たたき提供店舗(39店舗)による塩たたきの普及 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 ・商品開発ワークショップ	○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 ・SCA(BBQ)ジャポリーしまんと2021(12月)	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者		◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、販売や観光誘客などの拡大につながっている
【連携AP11】 (2) “食”の発信					
○食の魅力を活かした観光地づくり 《観光4》 ★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売 《観光4》 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充 《水産14、商工7》 ○一元的な情報発信の促進 《連携8、9、商工4、7、 観光7、10》 ◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動 《連携9、観光7》 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動 《商工8》	○食の発信・普及イベント等(新型コロナの影響により減少)【再掲】 6～12月 七駅物語城川ベーコン食べくらべ街道実施 (スタッフリ、愛媛県道の駅と連携) 8月 ナスフェス ・PV「来た人がいちばんおいしいしまんとにしとさ」を作成、PR ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信 ・サイクルトレイン事業 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会(1回)、旅行会社招聘(1回)、SDGsセミナー実施(2回)、教育旅行受入(7校済、20校予定、36校中止)、教育旅行下見(12校)、教育旅行セールス(山陽～関西方面16社)、観光PRキャラバン(兵庫1回) ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 ・BBQ講演会(7月)、JBBQA初級検定(8月) ・BBQ定着、PRコミュニケーションツール作成	○食の発信・普及イベント等(新型コロナの影響により減少)【再掲】 2～3月 四万十川花紀行「菜の花」まつり 3月 O N S E N・ガストロノミーツーリズム ○予土県境地域連携実行委員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・四万十・南予横断2リバービューライド2021(10月) ※コロナで中止・他の取組検討中 ○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体：幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・商談会(5回)、教育旅行セールス(関東方面)、一般旅行モニターツアー受入、教育旅行モニターツアー受入、クルーズ船モニターツアー受入、教育旅行受入(29校)、東京教育旅行説明会 ・四国DC全国宣伝販売促進会議 ○しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 ・SCA(BBQ)ジャポリーしまんと2021(12月)	四万十市 (農林水産課・観光商工課・産業建設課) 関係団体・組織 事業者 生産者	◆県内平均消費額(四万十川) H29:28,869円 →R6:33,000円 H30:27,459円 H31:29,585円 ◆商店街通行者数(平日) H27～H30平均:5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日 ◆産業祭来場者数 H30:20,000人 →R6:40,000人/5年 H31:3,000人 R2:中止	◆四万十の“食”として市内外の知名度が向上し、観光誘客や市街地への人の回遊につながっている

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
農業分野								
1 産地としての維持・強化								
1. 戦略品目の生産拡大								
【農業: AP1】								
(1) ぶしゅかんの産地づくり								
◎生産量の拡大と産地化の推進	○ぶしゅかん普及推進事業【再掲】 ・ブランド化確立等業務委託(四万十ぶしゅかん生産者組合) ・地域おこし協力隊配置(9/1~、販促・PR業務など) ○ぶしゅかん集出荷事業(四万十ぶしゅかん生産者組合) ・8~9月 集出荷支援 ※収穫は多機能事業所「アオ」と連携 ○40010日プロジェクトロゴの活用拡大【再掲】 ・果樹等を追加商標登録 ○ぶしゅかん栽培現地検討会【再掲】 4月~ 栽培管理指導、巡回指導	○ぶしゅかん普及推進事業【再掲】 ・新規定植(苗代への補助) ・有害鳥獣対策用防護柵(設置費補助) ○ぶしゅかん栽培現地検討会【再掲】 ・事業を継続	四万十市 (農林水産課・観光商工課) 生産者 事業者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha R2:13.0ha ◆ぶしゅかん生産量 H30:28.1t → R6:81t H31:21.2t R2:26.7t				
【農業: AP2】								
(2) ゆずの産地化促進								
○生産性の向上 ○隔年結果の低減や青果率、秀品率の向上	○ゆずの生産性の向上 ・ゆず現地検討会(6月)	○ゆずの生産性の向上 ・冬至用・平箱ゆず出荷目慣らし会(9月)、剪定講習会(3月)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 生産者、事業者	◆ゆず栽培面積 H30:44.0ha → R6:45ha H31:44.0ha R2:44.1ha ◆ゆず生産量 H27-H30平均431.5t/年 →R6:445t H31:432.0t R2:541.0t				
【農業: AP3】								
(3) 栗の産地再生								
◎栗園の再生	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換(栗園へ転換)0.21ha ○栗等の集出荷(西土佐地域) (実施主体:高知県農業協同組合、しまんと美野里) ・高知県農業協同組合:栗を含め地域振興作物の集出荷を実施 ・しまんと美野里:栗の集出荷を実施	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換 0.8ha(栗園へ転換) ・新改植推進 1,000本(苗木購入助成)	四万十市 (産業建設課) JA高知県 生産者 事業者	◆栗栽培面積 H30:48ha → R6:60ha H31:49.2ha R2:52.2ha ◆栗生産量 H27-H30 平均23.5t/年 → R6:60t H31:19.6t R2:18.3t				
【農業: AP4】								
(4) 米ナスの振興								
★生産量の拡大と産地化促進 ★地元での認知度向上及びブランド力の向上	○西土佐地域産業振興推進協議会(アツいまちサミット)事業【再掲】 ・道の駅ナスフェスで米ナスPR ・西土佐地域12店舗で米ナスの新メニューを開発 ・ガブッと米ナスキャンペーン(8月中、西土佐地域12店舗参加) ○露地作付面積日本一米ナスを活用した地域活性化事業【再掲】 (西土佐地域産業振興推進協議会) ・米ナスPRチラシ作成、レンピチラシ作成、HP作成		四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 生産者 事業者	◆米ナス栽培面積 H30:504a → R6:490a H31:421a R2:452a ◆米ナス生産量 H30:260t → R6:359t H31:277.5t R2:274.1t				
【農業: AP5】								
(5) 有望品目の産地強化								
○地域に根づいた有望品目による産地の育成・強化 ○新規品目導入の支援 ★新規品目「わさび」の栽培実用化に向けた取り組み ○野菜価格安定制度による経営支援	○レンタルハウス整備事業(実施主体:高知県農業協同組合) ・規模拡大区分3件 ○園芸ハウス整備事業 ・2件(生姜、ミョウガ) ○燃料タンク対策事業 (実施主体:高知県農業協同組合、生産者2戸) タンク整備着工(9月) ○わさび実証実験事業(実施主体:四万十市わさび栽培協議会) ・わさびの2作目栽培管理 ○野菜価格安定事業(中村地域:四万十市中村野菜価格安定基金協会) 5月に給付(前年度分) R2年度実績 枳:1,369千円、シト:173千円、ハナ:91千円	○園芸ハウス整備事業 ・6件(生姜、ミョウガ、ほうれん草、ニラ、大葉) ○燃料タンク対策事業 (実施主体:高知県農業協同組合、生産者2戸) タンク整備完了(11月) ○わさび実証実験事業(実施主体:四万十市わさび栽培協議会) ・事業を継続 ○園芸作物価格安定事業(西土佐地域:園芸作物価格安定基金評議会) 11月 評議会(書面会議)を開催(4月以降補給金支払)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 集落営農組織 生産者	◆有望品目の安定生産や新規品目が地域内で定着し、安定した農業経営につながっている				

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
農業分野								
2. 生産性の高い栽培技術の導入								
【農業:AP6】 (1) 学び教えあえる場づくり								
			○学び教えあう場づくり	○農業基礎講座 7~11月 農業基礎講座実施(全10回) (栽培技術、就農計画、制度資金、農薬適正使用、経営管理等) ○JA選果場における目慣らし会の実施(随時) ○地域内農家による巡回指導(随時) ・農家による四万十農園めぐりっこ研修生への訪問指導	○農業基礎講座 7~11月 農業基礎講座実施(全10回) (栽培技術、就農計画、制度資金、農薬適正使用、経営管理等) ○JA選果場における目慣らし会の実施(事業継続) ○地域内農家による巡回指導 ・事業を継続	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 四万十農園めぐりっこ 西土佐農業公社 生産者		◆講座等を通じて、営農に不可欠な栽培技術や経営感覚が習得され、持続的な農業経営が実践されている ◆新規就農者等と篤農家との交流が促進され、情報収集や就農後の相談体制収集や就農後の相談体制等ネットワークが構築されている
【農業:AP7】 (2) 環境保全型農業の推進								
			○環境保全型農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業 ・堆肥等有機物利用促進 4~8月実績:3件(中村0件、西土佐3件) ○環境保全型農業直接支払交付金事業 ・取組面積:3,300a 有機農業3,194a(中村)、カバークロープ106a(西土佐) ○環境保全型農業推進事業 ・JA高知県西土佐支所イコ部会1戸、19a	○有機農業等総合支援事業 ・事業を継続 ○環境保全型農業直接支払交付金事業 事業を継続 ○環境保全型農業推進事業 事業を継続	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆環境保全型農業直接支払事業参加経営面積 H30:21.4ha → R6:25ha H31:25.8ha R2:30.7ha ◆環境保全型農業推進事業実施経営体数 H30:21戸 → R6:20戸を維持 H31:15戸 R2:0戸	◆四万十川のブランドイメージにマッチした環境保全型農業が推進され、消費者からの支持が集まり、農産物の高付加価値が高まっている
【農業:AP8】 (3) 先端技術を活用した園芸施設や園芸システム等の普及推進								
			◎次世代型こうち新施設園芸システムの普及推進	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・事業者、高知県、農業公社など関係機関にて随時協議 ○ドローンによる稲作防除 ・山路、森沢地区の組織(R2県スマート農業推進事業活用)	○次世代園芸ハウス事業化に向けた協議 ・協議を継続	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆次世代施設園芸等への誘致企業数 H30:0社 → R6:1社 H31:0社 R2:0社	
3. 集落営農の推進								
【農業:AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援								
			○組織化に向けた取組みの推進 ★組織の広域連携の推進 ○フォローアップ体制の充実・強化	○組織化、法人化への誘導支援 ・大宮地区と組織化へ向けた協議 ・黒尊川営農組合と法人化へ向けた協議 ・広域連携組織に向けた協議1回(9月に再度実施予定) ○既存組織へのフォローアップ ・組織別座談会:(農)いーすとみやま協議6回、(農)四万十利岡FARM協議1回、(農)入田村協議2回、(農)わらびおか協議1回、安並水稲生産組合協議1回 ○集落営農広域化への取組み ・集落営農組織連絡協議会(西土佐地域)にて協議(9月)	○既存組織へのフォローアップ ・組織別座談会(回数は見込) (農)三里営農組合協議3回、(農)いーすとみやま協議6回 (農)四万十利岡FARM協議3回、集落営農組織連絡協議会(中村地域) ・地元住民との交流 小学校児童との稲刈り(10月 若藤営農組合・利岡小学校) ・広域連携組織に向けた協議(11月に実施予定)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 集落営農組織	◆集落営農組織数 H30:31組織 →R6:31組織を維持 H31:31組織 R2:31組織 ◆農業経営を行う法人数 H30:4法人→R6:8法人 H31:5法人 R2:7法人	
【農業:AP10】 (2) こうち型集落営農の実践								
			○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援	○地域営農支援事業(ソフト事業) ・農事組合法人入田村:雇用確保支援180千円(農の雇用事業) ○地域営農支援事業(ハード事業) 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成 ・農事組合法人四万十利岡FARM:コンバイン(4,749千円)、乾燥機2台(2,447千円)、籾摺機一式(940千円)、農業用倉庫(7,073千円) ・農事組合法人わらびおか:コンバイン(3,601千円) ・農事組合法人入田村:ハンマーナイフモア(1,079千円) ショウガハーベスター(858千円) ・農事組合法人いーすとみやま:フォークリフト(1,158千円)	○地域営農支援事業(ハード事業) 営農組織に対する農業用機械、施設整備等の助成(金額は予定額) ・農事組合法人三里営農組合:育苗機(390千円)、乾燥機(975千円)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 集落営農組織 JA高知県 生産者		◆収益性の高い品目を導入する組織が育成されている

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	
			主要内容						
農業分野									
4. 生産・出荷支援システムの構築									
【農業:AP11】									
(1) 農作業支援体制の充実									
			○農作業支援体制の整備	○農作業支援隊による農業労働力確保事業 (高知県農業協同組合) ・農作業支援 (8月現在) 堆肥散布:122t(四万十市分) ○農作業支援体制の整備 ・無料職業紹介所 (8月現在) 求職者:9件、求人:21件、マッチング:17件 ・周知活動:市役所2階図書館入口に募集ポップ設置 (通年)	○農作業支援隊による農業労働力確保事業 (高知県農業協同組合) ・事業を継続 ○農作業支援体制の整備 事業を継続	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 西土佐農業公社	◆無料職業紹介所紹介件数 H30:82件 → R6:180件 H31:97件 R2:23件		
【農業:AP12】									
(2) 集出荷支援体制の充実									
			○集出荷拠点施設の運営及び集出荷支援	○ぶしゅかん集出荷事業 (四万十ぶしゅかん生産者組合)【再掲】 8~9月 集出荷支援 ※収穫は多機能事業所「アオ」と連携 ○農産物の集出荷 東富山を守る会、JA高知県西土佐支所、しまんと美野里、西土佐ふるさと市		四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県、生産者 大川筋振興組合 東富山を守る会	◆生産・出荷支援システム 取組件数 H30:5件 → R6:5件を維持 H31:5件 R2:5件		
【農業:AP13】									
(3) 地域内農業者の共同生産体制の構築									
			★共同生産体制の構築	○西土佐地域での共同生産体制の構築 ・米ナス共同選果の取組み (JAでの実証試験)	○西土佐地域での共同生産体制の構築 ・事業を継続	四万十市 (産業建設課) JA高知県、生産者		◆生産技術を有する者がリーダーとなり 共同生産を行うグループが結成され、出 荷・販売が行なわれている	
2 地元農畜産物の利用・販売促進									
1. 地元農畜産物の利用促進									
			【農業:AP14】	主要内容 (1) 地元消費拡大に向けた取組みの強化 ○公共施設での利用促進、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP 1 ○市内量販店等を拠点とした販路拡大⇒ 連携AP 2					
			【農業:AP15】	主要内容 (2) 直販機能の強化 ◎直販所機能の強化⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8					
2. ブランド化の確立と販売促進									
			【農業:AP16】	主要内容 (1) ブランド化の推進 ○戦略品目のブランド化、◎40010日プロジェクト、★新食肉センター整備に伴う養豚場の整備促進、★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3					
			【農業:AP17】	主要内容 (2) 地元農畜産物を使った商品の開発・販売 ○地元農畜産物を使った商品の開発、○意欲的な生産者への支援⇒ 連携AP 3 ◎産業界連携や広域連携による外販活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP 8					
3. 有機農業の推進									
			【農業:AP18】	主要内容 (1) 有機農産物の販路開拓・拡大 ○有機農産物の流通促進⇒ 連携AP 1、連携AP 8 ○公共施設での利用促進⇒ 連携AP 1					
			【農業:AP19】	(2) 有機農業の普及・啓発活動の推進					
			○有機農業の普及・啓発	○有機農業等総合支援事業【再掲】 ・堆肥等有機物利用促進 4~8月実績:3件(中村0件、西土佐3件)	○有機農業等総合支援事業【再掲】 ・事業を継続	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 地産地消推進団体 生産者	◆有機農業等総合支援事業 実施面積 H30:6.0ha → R6:6.0haを維持 H31:6.2ha R2:9.5ha	◆四万十川のブランドイメージにマッ チした有機農業が推進され、消費者か らの支持が集まり、農産物の高付加価 値が高まっている	

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
農業分野								
3 担い手の確保・育成								
1. 新規就農者の確保・育成								
【農業:AP20】 (1) 新規就農者の研修支援								
○新規就農者の確保・育成 ○新規就農者に対する農地提供促進	○新規就農研修支援事業 研修生手当、受入農家等研修補助金を交付 ・中村地域 あぐりっこ:研修生2名、受入農家:研修生0名 研修生1名は8月に新規就農 ・西土佐地域 西土佐農業公社 新規研修生なし ○農地等の斡旋 ・空き農地、空きハウス情報収集・提供 (中村地域)	○市農業紹介PR映像製作	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県 生産者	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31: 4人/年 R2: 7人/年				
【農業:AP21】 (2) 新規就農支援体制の拡充								
○相談支援体制の充実 ○経営安定への支援 ○就農開始時の支援	○新規就農支援チームによるトータルサポート ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート	○就農相談会等 ・県外の合同就農相談会等出展2回程度 ○新規就農支援チームによるトータルサポート ・経営計画作成支援等 (1名予定) ・営農指導、経営指導、事業導入、資金利用計画等のサポート ・経営計画作成支援等 ○農業次世代人材投資資金 (経営開始型) 交付 ・継続対象者: 13名、新規対象者1名	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31: 4人/年 R2: 7人/年				
【農業:AP22】 (3) 移住促進による新規就農支援								
○移住就農者の誘致活動		○就農相談会等【再掲】 ・県外の合同就農相談会等出展2回程度	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 四万十農園あぐりっこ 西土佐農業公社 JA高知県	◆新規就農者数 H27-H30平均2.8人/年 → 3人/年 H31: 4人/年 R2: 7人/年				
2. 認定農業者等の育成								
【農業:AP23】 (1) 認定農業者制度の周知強化								
○今後育成すべき農業者の把握、誘導 ○認定農業者制度の周知徹底	○人・農地プランの実質化 ・地区座談会の実施 ○経営所得安定対策推進事業 5月 中村地域: 5回、西土佐地域: 3回 ○認定農業者制度 (見込み含む) ・5年経過の更新認定 (中村地域: 1人、西土佐地域: 7人) ・新規認定 (中村地域: 1人、西土佐地域: 0名)	○人・農地プランの実質化 ・地区座談会の実施、人・農地プラン実質化公表 ○認定農業者制度 (見込み含む) ・新規就農者、認定新規就農者 (5年経過) へ制度説明・誘導 (3月: 中村16名、2月: 西土佐3名)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県	◆認定農業者数 H30: 139人 → R6: 150人 H31: 133人 R2: 131人				
【農業:AP24】 (2) 認定農業者等のフォローアップの強化								
○認定農業者等のフォローアップの強化	○認定農業者のフォローアップ ・再認定者の計画作成支援 (中村地域0件、西土佐地域6件) ・変更認定者の計画作成支援 (中村地域1件、西土佐地域0件) ・新規認定者の計画作成支援 (中村地域1件、西土佐地域1件) ○スーパーL資金利子補給 8月 スーパーL資金上半期利子補給 (中村1件、西土佐1件)	○認定農業者のフォローアップ ・再認定者の計画作成支援 (中村地域16件、西土佐地域3件) ・変更認定者の計画作成支援 (中村地域1件、西土佐地域0件) ・新規認定者の計画作成支援 (中村地域1件、西土佐地域0件) ○スーパーL資金利子補給 2月 スーパーL資金下半期利子補給 (西土佐2件)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) JA高知県 認定農業者連絡協議会	◆認定農業者数 H30: 139人 → R6: 150人 H31: 133人 R2: 131人				

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
農業分野			【再掲】 3. 集落営農の推進					
			【農業:AP9】 (1) 集落営農の組織化、法人化の支援	主な内容 ○組織化に向けた取り組みの推進、★組織の広域連携化の推進、◎フォローアップ体制の充実・強化⇒ 農業AP9				
			【農業:AP10】 (2) こうち型集落営農の実践	主な内容 ○収益性の高い品目を導入した組織の育成・支援⇒ 農業AP10				
			4 農地の利用促進					
			1. 農地の利用調整					
			【農業:AP25】 (1) 農地利用の円滑化					
			○農地中間管理機構の活用 ○地域の農業委員による農地の利用調整 ◎人・農地プランの実質化	○農地中間管理事業 ・市内全域で中間管理事業実施に向けた農地の掘り起こし ・掘り起こした農地の中間管理権設定 (R2実績:63,576㎡) ・中間管理権設定農地の受け手への配分 ○農業委員等による農地の利用調整 ・農地パトロールの実施、利用意向調査実施、調査結果の取りまとめ結果 (機構利用希望データ) の機構への引渡し、情報提供 ○人・農地プランの実質化【再掲】 ・地区座談会の実施	○農地中間管理事業 ・市内全域で中間管理事業実施に向けた農地の掘り起こし ・掘り起こした農地の中間管理権設定 ・中間管理権設定農地の受け手への配分 ○農業委員等による農地の利用調整 ・農地パトロールの実施、利用意向調査実施、調査結果の取りまとめ結果 (機構利用希望データ) の機構への引渡し、情報提供 ○人・農地プランの実質化【再掲】 ・地区座談会の実施、人・農地プラン実質化公表	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 農業委員会		◆営農類型に応じた農地集積、農地利用の円滑化 (流動化) が促進されている
			【農業:AP26】 (3) 基盤整備の推進					
			○入田、三里地区整備 ○利岡地区整備 ○その他の地区整備	○入田地区 (R2繰越) ・水源確保・換地業務 等 ○利岡地区 (R2繰越、R3現年) ・舗装工事・換地業務 等 ○三里地区 (R2繰越、R3現年) ・舗装工事・換地業務 等 ○整備完了後の促進事業検討協議、基盤整備地区のリスタート・検討	○入田地区 (R2繰越) ・事業継続 ○利岡地区 (R2繰越、R3現年) ・事業継続 ○三里地区 (R2繰越、R3現年) ・事業継続 ○整備完了後の促進事業検討協議、基盤整備地区のリスタート・検討	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 地区組織	◆ほ場整備実施面積 H31:1,128.3ha →R6:1,144ha R2:0.9ha (利岡) 2.7ha (三里) 10.4ha (利岡) 1,142.3ha (全体)	
			2. 耕作放棄地対策					
			【農業:AP27】 (1) 耕作放棄地の再生及び発生防止対策					
			○耕作放棄地の再生 ○耕作放棄地の発生防止対策	○耕作放棄地の再生 ・農地利用意向調査による再生地情報の取得、 ・農地パトロールによる再生地確認 ○耕作放棄地の発生防止対策 ・中山間地域等直接支払交付金 (四万十市計) 交付予定額 85,784千円 交付組織数 50組織 ・多面的機能支払交付金 (四万十市計) 交付予定額 109,456千円 59組織、1403.37ha	○耕作放棄地の発生防止対策 ・多面的機能支払交付金 (四万十市計) 交付予定額 109,456千円 59組織、1403.37ha	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 農業委員会 集落協定組織 農地・水保全組織	◆中山間地域等直接支払制度の実施農地面積 H31:521.5ha →R6:521.5haを維持 R2:538.0ha ◆多面的機能支払制度の実施農地面積 H31:1,446.1ha →R6:1,446.1haを維持 R2:1,446.1ha	
			【農業:AP28】 (2) 適合品目の栽培促進					
			○適合品目の栽培促進	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換 (栗園へ転換) 0.21ha	○栗暮プロジェクト【再掲】 ・西土佐橋地区栗実証農園運営 農業公社へ運営委託 ・水田転換 0.8ha (栗園へ転換) ・新改植推進 1,000本 (苗木購入助成) ○ぶしゅかん産地化・普及推進事業【再掲】 10月～ 新規定植 (苗代補助) 1,000本、200a (予算へ-ス) 有害鳥獣対策用防護柵 750m (予算へ-ス)	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 生産者	◆ぶしゅかん新植面積 H30:10.9ha → R6:25ha H31:11.7ha R2:13.0ha ◆栗栽培面積 H30:48.0ha→R6:60.0ha H31:49.2ha R2:52.2ha	

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
林業分野								
1 四万十の山づくり								
1. 長期的視点に立った産地づくり								
【林業: AP1】 (1) ヒノキ産地としての意識の醸成								
	○ヒノキ産地としての市民意識の醸成	○ヒノキ産地としての市民意識の醸成	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 宿泊者:21組、延べ107名 見学者:35名(7月末現在)	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 ・事業を継続	○「四万十ヒノキの家」での見学・宿泊体験の実施【再掲】 ・事業を継続	四万十市(農林水産課)		◆市民、森林所有者へ品質に優れたヒノキ資源が全国有数であり、ヒノキ産地として森林整備の必要性が周知されているとともに、山(林業)や木材への関心が高まっている
	○森林所有者の意識の醸成	○森林所有者の意識の醸成	○提案型集約化施策の推進 ・森林組合、林業事業者で森林所有者へのアプローチ・啓発、提案型集約化施策への地権者合意形成を推進、意向調査業務、境界の明確化の実施	○フェア等への参加 10月 高知もくもくエコランド2021森林環境学習フェア (出店:四万十ヒノキブランド化推進協議会)	○フェア等への参加 10月 高知もくもくエコランド2021森林環境学習フェア (出店:四万十ヒノキブランド化推進協議会)	森林組合 林業事業者 四万十ヒノキブランド化推進協議会		
【林業: AP2】 (2) 計画的な森林管理・経営の促進								
	◎森林資源の現状把握とデータ管理の徹底	◎森林資源の現状把握とデータ管理の徹底	○森林経営管理制度の運営 ・森林所有者意向調査準備業務:453筆 意向調査業務:278名 ・奥鴨川作業道開設:360m(2,223千円)	○森林経営管理制度の運営 ・意向調査業務:365ha ・境界の明確化、林況調査:110ha	○森林経営管理制度の運営 ・意向調査業務:365ha ・境界の明確化、林況調査:110ha	四万十市(農林水産課) 林業事業者	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha H31:5,361.7ha R2:3,987.3ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている
	○経営類型明確化の推進	○経営類型明確化の推進	○市有林台帳、林地台帳(県)データ修正・管理	・口鴨川:保育間伐:20ha(5,000千円) 作業道開設:1,000m(6,200千円)	・口鴨川:保育間伐:20ha(5,000千円) 作業道開設:1,000m(6,200千円)			
	○提案型集約化施策の推進	○提案型集約化施策の推進	○森林経営計画の作成 ・林業事業者等が森林経営計画を作成し経営類型を明確化 ・計画変更2件(遠山産業2件) ・新規計画2件(土佐建興1件、エコ企画四万十1件)					
【林業: AP3】 (3) 循環型森林整備								
	★未整備林の整備促進	★未整備林の整備促進	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・森林所有者意向調査準備業務:453筆 意向調査業務:278名 ・奥鴨川作業道開設360m(2,223千円)	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・意向調査業務:365ha ・境界の明確化、林況調査:110ha	○森林経営管理制度の運営【再掲】 ・意向調査業務:365ha ・境界の明確化、林況調査:110ha	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者	◆「森の工場」の認定面積 H30:3,100ha → R6:3,900ha H31:5,361.7ha R2:3,987.3ha	◆計画的な森林管理・経営に向け「森の工場」や森林経営計画が整備促進されている
				・口鴨川:保育間伐:20ha(5,000千円) 作業道開設:1,000m(6,200千円)	・口鴨川:保育間伐:20ha(5,000千円) 作業道開設:1,000m(6,200千円)			
2. 長伐期施策の推進								
【林業: AP4】 (1) 長伐期施策方針の啓発及び普及								
	○長伐期施策方針の啓発及び普及	○長伐期施策方針の啓発及び普及				四万十市(農林水産課)		◆長伐期施策方針が広く認知されている
【林業: AP5】 (2) 長伐期施策技術(ノウハウ)の蓄積と普及								
	○市有林におけるモデル林の整備	○市有林におけるモデル林の整備	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載) ・常六(セソサ):搬出間伐5ha、作業道1,250m(4,670千円) ・下古尾1工区:作業道2,500m(7,900千円) ・小西ノ川:搬出間伐1.90ha(1,025千円) ・住次郎:作業道開設800m(1,855千円) ・不動山:搬出間伐15ha(8,720千円)	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載) ・下古尾2工区:搬出間伐5ha、作業道500m(4,000千円) ・奥屋内:搬出間伐13ha、作業道14000(9,000千円) ・下家地:搬出間伐8ha(6,311千円)	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載) ・下古尾2工区:搬出間伐5ha、作業道500m(4,000千円) ・奥屋内:搬出間伐13ha、作業道14000(9,000千円) ・下家地:搬出間伐8ha(6,311千円)	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者 四万十ヒノキブランド化推進協議会		◆長伐期施策に関するノウハウ、技術体系が確立され、普及している
	○長伐期施策の講習会等の開催	○長伐期施策の講習会等の開催	○協働の森づくり ・上古尾:搬出間伐9.0ha、作業道1700m(8,109千円) ・三里:下刈り25.59ha(6,184千円)	○協働の森づくり ・藤ノ川:搬出間伐5ha、作業道600m(4,894千円)	○協働の森づくり ・藤ノ川:搬出間伐5ha、作業道600m(4,894千円)			
3. 適切な皆伐、間伐による原木生産の拡大								
【林業: AP6】 (1) 森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践								
	○森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践	○森林の特性に応じた皆伐、間伐の実践	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・常六(セソサ):搬出間伐5ha、作業道1,250m(4,670千円) ・下古尾1工区:作業道2,500m(7,900千円) ・小西ノ川:搬出間伐1.90ha(1,025千円)	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・下古尾2工区:搬出間伐5ha、作業道500m(4,000千円) ・奥屋内:搬出間伐13ha、作業道14000(9,000千円) ・下家地:搬出間伐8ha(6,311千円)	○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・下古尾2工区:搬出間伐5ha、作業道500m(4,000千円) ・奥屋内:搬出間伐13ha、作業道14000(9,000千円) ・下家地:搬出間伐8ha(6,311千円)	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者	◆原木生産量 H29:71,945㎡ → R6:75,000㎡ H30:55,025㎡	

分野		上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
戦略の柱						
施策						
アクションプラン						
主要内容						
林業分野		<ul style="list-style-type: none"> ・住次郎：作業道開設800m (1,855千円) ・不動山：搬出間伐15ha (8,720千円) ○協働の森づくり【再掲】 ・上古尾：搬出間伐9.0ha、作業道1700m (8,109千円) ・三里：下刈り25.59ha (6,184千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ○協働の森づくり【再掲】 ・藤ノ川：搬出間伐5ha、作業道600m (4,894千円) 			
【林業：AP7】 (2) 施業の効率化と低コスト化						
<ul style="list-style-type: none"> ○作業道や林業機械導入への支援 ○林内路網の維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・常六(センオウ)：作業道1,250m (4,670千円) ・下古尾1工区：作業道2,500m (7,900千円) ・住次郎：作業道開設800m (1,855千円) ○協働の森づくり【再掲】 ・上古尾：作業道1700m (8,109千円) ・三里：下刈り25.59ha (6,184千円) ○緊急間伐総合支援事業 ・作業道 954m (1,475千円) ○林道維持補修：維持工事3件 (4,000千円) ○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・森林機能強化：L=200m (作業道整備) ○ふるさと暮らし支援事業補助金(作業道の改良・舗装) ・林道舗装：6路線(延長=347m、150千円) ・作業道舗装：2路線(総延長=111m、100千円) 	<ul style="list-style-type: none"> ○森の工場(協働の森づくり事業は別途掲載)【再掲】 ・下古尾2工区：作業道500m (4,000千円) ・奥屋内：作業道14000 (9,000千円) ○協働の森づくり【再掲】 ・藤ノ川：作業道600m (4,894千円) 	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆作業道開設実績延長累計 H29:836,368m → R6:873,000m H30:864,854m H31:888,354m 	<ul style="list-style-type: none"> ◆効率的な作業システムによる施業の低コスト化が進んでいる 	
【林業：AP8】 (3) 低コスト再造林、育林の検討						
<ul style="list-style-type: none"> ○低コスト再造林、育林の実践 ○防護ネットの設置と捕獲の促進 	<ul style="list-style-type: none"> ○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 8月現在の捕獲頭数()は計画 シカ 1,084頭(2,800頭)、イノシシ 1006頭(1,500頭)、サル 34頭(100頭) ハクビシ 175頭(400頭)、カウ 125羽(500羽) ○食害ネット設置 ○国防護柵設置(事業主体：四万十市有害鳥獣被害対策協議会) ・鳥獣被害防止対策総合支援交付金 整備事業 15地区 柵L=54,606m 86,494千円 推進事業(捕獲檻) 2,000千円 	<ul style="list-style-type: none"> ○有害鳥獣捕獲報償金による捕獲 ・事業を継続 	四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者 四万十市有害鳥獣被害対策協議会	<ul style="list-style-type: none"> ◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 H31:2,447頭 R2:2,368頭 	<ul style="list-style-type: none"> ◆低コスト再造林、育林のノウハウ、技術体系の確立が進んでいる 	
4. 林業事業者や担い手の確保、育成						
【林業：AP9】 (1) 林業事業者及び林業技術者の育成支援						
<ul style="list-style-type: none"> ○林業事業者、林業技術者の育成 ○森林組合の経営力強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○「緑の雇用」事業 雇用者10人(森林組合8名、林業事業者1名) 新規：2(組合2、事業者0) 2年目：4(組合3、事業者1) 3年目：4(森林組合4、林業事業者0) ○林業担い手育成支援事業 緑の雇用事業で新規就業者を雇用している林業事業者に補助金交付 60,000円×12カ月×9名=6,480千円(見込) ○森林組合の経営力強化 市有林整備事業、協働の森づくり事業、森の工場を実施 		四万十市(農林水産課) 森林組合 林業事業者 四万十市ヒノキブランド推進協議会 幡多林業活性化センター	<ul style="list-style-type: none"> ◆新規林業就業者数 H27-H30平均5人/年 → R6:5人/年 H31:3人/年 R2:3人/年 	<ul style="list-style-type: none"> ◆経営能力の高い森林組合、林業事業者が効率的な生産活動を展開している ◆効率的な林業生産活動を行うことができる優れた担い手が育成されている 	
【林業：AP10】 (2) 森林保育等の活動グループへのアプローチ						
<ul style="list-style-type: none"> ○兼業型林業事業者の育成支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○原木増産推進事業(レンタルタイプ) ・小規模林家が行う林業機械レンタルの補助 バックホウ×3名 		四万十市(農林水産課) 兼業型林業事業者		<ul style="list-style-type: none"> ◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている 	

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
林業分野								
			【林業:AP11】 (3) 自伐林家及び集落組織等の育成					
			○自伐林家及び集落組織等の育成	○森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業 ・西土佐地域3組織が森林保全や山村地域活性化などの取り組みを実施		四万十市（農林水産課） 自伐林家等		◆林業生産活動を行う多様な担い手が育成されている
			2 供給体制の強化					
			1. 加工事業体の生産力等強化					
			【林業:AP12】 (1) 木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化	主要内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP 4				
			2. 供給体制の効率化					
			【林業:AP13】 (1) 木材流通ネットワークの構築	主要内容 ○木材流通ネットワークの構築⇒ 連携AP 1				
			3 市産材の利用促進と販売力の強化					
			1. 市産材の利用促進					
			【林業:AP14】 (1) 木造住宅の建築促進	主要内容 ○木造住宅建築への支援、○コーディネート組織の設立⇒ 連携AP 1				
			【林業:AP15】 (2) 市産材の利用促進及び情報発信の強化	主要内容 ○木造化、木質化への情報発信、普及・啓発の強化、○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP 1 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP 8				
			2. 木質バイオマス利用促進					
			【林業:AP16】 (1) 林地残材等の搬出の促進	主要内容 ○林地残材等の搬出の促進⇒ 連携AP 1				
			【林業:AP17】 (2) 木質バイオマス利用設備の普及促進	主要内容 ○木質バイオマスボイラー等の普及促進⇒ 連携AP 1				
			3. 四万十ヒノキブランドの確立と販売力の強化					
			【林業:AP18】 (1) 四万十ヒノキブランドの確立	主要内容 ○四万十ヒノキのブランド化の推進⇒ 連携AP 4				
			【林業:AP19】 (2) 四万十ヒノキ製品の生産拡大、商品力の強化	主要内容 ○木材・木工製品の生産の拡大・商品力の強化⇒ 連携AP 4				
			【林業:AP20】 (3) 四万十ヒノキ製品の販売力の強化	主要内容 ○四万十ヒノキ製品の販売力の強化⇒ 連携AP 8				
			4 健全な森づくり					
			1. 人と鳥獣の良好・適切な環境づくり					
			【林業:AP21】 (1) 鳥獣被害対策	主要内容 ○防護ネットの設置と捕獲の促進⇒ 林業AP 8				
			【林業:AP22】 (2) 捕獲の担い手確保、育成					
			○捕獲の担い手の確保、育成	○新規狩猟者の確保（市広報7月号でPR） ○新規狩猟者免許試験予備講習会受講料補助金（利用者8名） ○新規狩猟者射撃教習受講料補助 利用者2名（上記8名の内数）		四万十市（農林水産課） 猟友会	◆シカの捕獲頭数 H30:2,776頭 → R6:4,500頭 H31:2,447頭 R2:2,368頭	
			2. 森のものの活用					
			【林業:AP23】 (1) 特用林産物の生産活動の支援とPR					
			○特用林産物の生産活動への支援とPR			四万十市（農林水産課）	◆特用林産物（しいたけ、木炭）生産量 H29:23,466kg → R6:48,000kg H30:25,635kg H31:42,665kg	

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
水産業分野								
1 水産資源の回復・生産量UP								
1. 天然水産資源の回復・増殖								
【水産AP1】								
(1) 漁場環境、資源量等の調査・研究								
			○漁場環境、資源量等の調査・研究 ○調査結果の広報活動		○四万十川漁業振興協議会補助金 ・アユ疾病の疫学調査 (10月～3月) ・アユ仔魚調査 (10月～3月) ・ヒトエグサ調査 (10月～3月)	四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会 漁業協同組合		◆漁場環境や資源量等の継続的な把握と減少要因の分析が進み、漁業者と情報が共有され、天然資源の回復・増殖に向け関係者の連携した取り組みが進んでいる
【水産AP2】								
(2) 生育・漁場環境の保全・整備								
			○スジアオノリ生育・漁場環境の保全・整備 ○アユの産卵場の再生と保全管理 ○イセエビ漁礁設置による漁場整備	○スジアオノリ漁場整備支援 (四万十川下流漁業協同組合) ・河川形状整備等 ○四万十川自然再生事業 (国土交通省・四万十川自然再生協議会による整備) アユの産卵場整備や汽水域の浅場再生などを行い、モニタリング調査を実施		四万十市(農林水産課) 四万十川自然再生協議会 漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t H31:29t ◆海面漁業漁獲量 H29:14t → R6:15t H30:13t	
R2年度調査実績 (調査結果の一部を掲載)								
・アユの瀬づくりモニタリング調査 アユ産卵状況調査結果 (11月 入田、大浦、大壁、小島) 全産卵場でアユの産卵床を確認 (産卵場総面積 R1:23,185㎡⇒R2:31,244㎡に増加) 前年比で入田産卵場は減少、その他は拡大。最大の産卵場は大壁 (20,546㎡) ・魚のゆりかごづくりモニタリング調査 スジアオノリ生育地分布調査結果 (2月 山路で試験掘削を行った5箇所) すべての工事区で生育を確認。全体の生育状況は、被度1 (5%未満)～被度3 (25～50%未満) であり、生育面積は約3.1haであった。 コアマモ分布調査結果 (7月 実崎)								
2. 栽培漁業等の推進								
【水産AP3】								
(1) 効果的な種苗放流の推進								
			○内水面資源の種苗放流 ○沿岸資源の種苗放流	○稚アユ等放流補助金 他 ・四万十川中央漁業協同組合 稚アユ1,798kg、うなぎ放流50kg ・四万十川西部漁業協同組合 稚アユ981kg、アメゴ放流20kg ○稚アユ等放流 (独自) ・四万十川下流漁業協同組合 稚アユ40kg ○中土佐町へ川エビ養殖の視察 (3月)	○稚アユ等放流補助金 他 ・四万十川西部漁業協同組合 うなぎ放流 ○稚アユ等放流 (独自) ・四万十川下流漁業協同組合 うなぎ放流	四万十市(農林水産課) 漁業協同組合	◆内水面・沿岸資源の種苗放流 R6:維持	
【水産AP4】								
(2) アオサの生産拡大								
			○区画あたりの生産拡大 ○新たな漁場の開拓と新規参入の促進 ○生産・品質管理の徹底	○四万十川漁業振興協議会補助金【再掲】 ・ヒトエグサ漁場環境調査 (水温、塩分の測定) ○生産工程の均一化と品質管理(四万十川下流漁業協同組合)【再掲】 ・生産工程マニュアルによるアサ、スジアオノリの生産工程の均一化と品質管理を継続		四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会 四万十川下流漁業協同組合	◆内水面漁業漁獲量 H29:49t → R6:50t H30:37t H31:29t	◆安定した生産量と品質が確保され、入札業者の増加と高値安定が確保されている
【水産AP5】								
(3) スジアオノリの栽培技術の研究などへの支援								
			○スジアオノリの栽培技術への支援 (助言など)	○室戸市へスジアオノリ陸上養殖の視察 (5月)		四万十市(農林水産課) 四万十川下流漁業協同組合		◆スジアオノリの自然栽培技術が向上し、安定した生産が行われている
3. 地域に根差した資源管理の仕組みづくり								
【水産AP6】								
(1) 漁場利用の新たなルールづくり								
			○漁場利用のための新たなルールづくり	○エビ資源保護 (実施主体:高知県内水面漁場管理委員会) ・県内全河川でテナガエビ類採捕禁止 (9～3月) (広報掲載)	○エビ資源保護 (実施主体:高知県内水面漁場管理委員会) ・事業継続	四万十市(農林水産課) 四万十川漁業振興協議会		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取り組みが進んでいる

分野	戦略の柱	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
	施策					
	アクションプラン					
	主要内容					
水産業分野						
	【水産AP7】 (2) 資源保護のための情報発信の強化					
	○資源保護のための情報発信の強化		○禁漁期間の周知と資源保護の啓発 ・密漁防止ポスター掲示 ・各種禁漁期間の周知 (広報掲載)	四万十市 (農林水産課) 漁業協同組合 高南幡東漁業秩序を守る会 (海面漁業)		◆市民、漁業者の意識と機運が高まり、資源管理の取り組みが進んでいる
	4. 担い手の確保、育成					
	【水産AP8】 (1) 新規就業者のための研修・フォローアップ					
	○講習会、研修会の開催 ○受入漁家による研修制度の拡充			四万十市 (農林水産課) 漁業協同組合	◆漁業体験研修の受講者数 R2~R6の5年間で3人 H31:0人 R2:0人	
2 水産物の加工、販売促進						
1. 水産物の高付加価値化の推進						
	【水産AP9】 (1) 今ある商品の磨き上げ	主要内容 ○品質管理の向上、○商品力の強化⇒ 連携AP5				
	【水産AP10】 (2) 新たな商品開発	主要内容 ○未利用資源等の掘起しと活用⇒ 連携AP5、連携AP10	○新たな商品の企画・開発の支援⇒ 連携AP5			
2. 販売力の強化と販路拡大						
	【水産AP11】 (1) 漁協の販売力の強化	主要内容 ○漁協の販売機能の強化⇒ 連携AP1、連携AP8				
	【水産AP12】 (2) ブランド力の強化と販路拡大	主要内容 ○ブランディングの構築と発信、◎産業間連携や広域連携による外商活動等、○商談会等販路開拓・拡大の支援⇒ 連携AP8	○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1			
3. 魚食文化の磨き上げと発信						
	【水産AP13】 (1) 魚食文化の磨き上げ	主要内容 ○魚食文化の磨き上げ⇒ 連携AP10				
	【水産AP14】 (2) 魚食文化の発信強化	主要内容 ○グルメイベント等での魚食文化の発信⇒ 連携AP11				
3 水産資源を活用した交流の拡大						
1. 体験交流の推進						
	【水産AP15】 (1) 魅力ある体験商品づくり					
	○体験商品の磨き上げ			四万十市 (農林水産課・産業建設課・観光商工課) 漁業協同組合 観光協会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している
	【水産AP16】 (2) 体験教室等の開催					
	○体験教室の開催	○川漁体験学習等 (四万十川中央漁協組合) ・稚アユ放流 (4月: 蕨岡小学校19名、具同小学校50名) ・投網体験 (7月: 中村西中学校1年生70名) ・アユしゃくり漁体験 (7月: 大用小22名・中学校11名) ・アユつかみどり体験 (9月: 中村幼稚園) ○四万十川ガキ体験 (7、8月 2回開催) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 小学生、保護者 (40名参加) 体験内容: カヌー、サップでの川下り ○水辺の楽校 (5月~) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 中村小、東山小、具同小、中村南小、蕨岡小、西土佐小3~4年生 体験内容: 水生生物採取、清流度調査 ○親子川漁体験 (四万十の日実行委員会) 8月 雨天により中止	○水辺の楽校 (9月~10月) 主催: 四万十の日実行委員会 対象: 下田小、大用小、中筋小、東中筋小、八束小、利岡小、竹島小 (予定) 体験内容: 水生生物採取、清流度調査	四万十市 (農林水産課・産業建設課) 漁業協同組合 四万十川漁業振興協議会 四万十の日実行委員会		◆自然や漁業への関心と資源保護に対する市民意識が向上している

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)																								
			主要内容																													
商工業分野																																
1 顧客に選ばれる商工業の振興																																
1. 地域資源を活かした商品開発																																
	【商工AP1】 (1) 今ある特産品等商品の磨き上げ	主要内容 ○テストマーケティング、○商品の品質、ラベル等の磨き上げや表示の適正化⇒ 連携AP6																														
	【商工AP2】 (2) 魅力ある素材・アイデアの掘起し	主要内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○事業者間のマッチング機会の創出⇒ 連携AP6																														
	【商工AP3】 (3) 新たな特産品等の商品開発	主要内容 ○新たな商品・サービス等の企画・開発支援⇒ 連携AP6																														
	【商工AP4】 (4) 商品の販路開拓・販売促進	主要内容 ○地元消費拡大フェアの開催⇒ 連携AP1 ○商談会等販路開拓・拡大の支援、◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11																														
	【商工AP5】 (5) 商品開発、販路開拓の中核となる人材、組織の育成等	主要内容 ○事業者や地域グループ等の人材育成⇒ 連携AP6、連携AP8 ○新食肉センターの整備・新食肉センターを核とした地域産業の振興⇒ 連携AP2																														
2. 四万十の“食”文化の磨き上げと発信																																
	【商工AP6】 (1) 四万十の“食”文化の磨き上げ	主要内容 ○四万十の食文化の掘起し、磨き上げ、○塩たたきのブランド化の推進⇒ 連携AP10																														
	【商工AP7】 (2) 地域を拠点とした食の発信	主要内容 ○食の発信イベント・企画の磨き上げ及び拡充⇒ 連携AP11 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11																														
	【商工AP8】 (3) 都市圏等を拠点とした食の発信	主要内容 ◎産業間連携や広域連携による外商活動等⇒ 連携AP8 ★県外事業者等の拠点を活用した外商活動⇒ 連携AP11																														
3. 地震防災対策における建設事業の推進																																
	【商工AP9】 (1) 施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保	○施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保																														
	○施設の長寿命化・南海地震対策の強化による建設事業の確保	○施設の長寿命化・南海地震対策関連の建設事業費 (令和3年度当初予算額【繰越含】1,118,544千円)				四万十市 (地震防災課ほか)	◆施設の長寿命化・南海地震対策 R6:強化 ◆住宅耐震化率 H30:69.8% → R6:81.9% H31:71.4% R2:73.3%	◆建設業を支える若年層の技術者が増加している																								
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【R3当初】計779,871千円</p> <table border="0"> <tr> <td>・津波避難路災害復旧工事</td> <td>2,000千円</td> <td>・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)</td> <td>15,000千円</td> </tr> <tr> <td>・津波避難タワー備蓄倉庫整備</td> <td>2,420千円</td> <td>・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成</td> <td>182,425千円</td> </tr> <tr> <td>・住宅等耐震改修助成</td> <td>95,701千円</td> <td>・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)</td> <td>30,233千円</td> </tr> <tr> <td>・老朽住宅除去事業費助成</td> <td>40,000千円</td> <td>・緊急自然災害防止対策 (道路防災)</td> <td>62,292千円</td> </tr> <tr> <td>・排水機場長寿命化 (県営事業)</td> <td>24,600千円</td> <td>・防災安全社会資本整備交付金事業</td> <td>194,250千円</td> </tr> <tr> <td>・道路メンテナンス事業</td> <td>150,950千円</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </div>			・津波避難路災害復旧工事	2,000千円	・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)	15,000千円	・津波避難タワー備蓄倉庫整備	2,420千円	・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成	182,425千円	・住宅等耐震改修助成	95,701千円	・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)	30,233千円	・老朽住宅除去事業費助成	40,000千円	・緊急自然災害防止対策 (道路防災)	62,292千円	・排水機場長寿命化 (県営事業)	24,600千円	・防災安全社会資本整備交付金事業	194,250千円	・道路メンテナンス事業	150,950千円						
・津波避難路災害復旧工事	2,000千円	・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)	15,000千円																													
・津波避難タワー備蓄倉庫整備	2,420千円	・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成	182,425千円																													
・住宅等耐震改修助成	95,701千円	・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)	30,233千円																													
・老朽住宅除去事業費助成	40,000千円	・緊急自然災害防止対策 (道路防災)	62,292千円																													
・排水機場長寿命化 (県営事業)	24,600千円	・防災安全社会資本整備交付金事業	194,250千円																													
・道路メンテナンス事業	150,950千円																															
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【繰越分】計318,673千円</p> <table border="0"> <tr> <td>・住宅等耐震改修助成</td> <td>74,000千円</td> <td>・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)</td> <td>16,627千円</td> </tr> <tr> <td>・老朽住宅除去事業費助成</td> <td>10,000千円</td> <td>・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成</td> <td>2,411千円</td> </tr> <tr> <td>・避難所自家発電施設整備工事</td> <td>28,317千円</td> <td>・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)</td> <td>6,608千円</td> </tr> <tr> <td>・津波避難路整備</td> <td>1,807千円</td> <td>・緊急自然災害防止対策 (道路防災)</td> <td>27,693千円</td> </tr> <tr> <td>・排水機場長寿命化 (県営事業)</td> <td>27,079千円</td> <td>・防災安全社会資本整備交付金事業</td> <td>124,131千円</td> </tr> </table> </div>			・住宅等耐震改修助成	74,000千円	・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)	16,627千円	・老朽住宅除去事業費助成	10,000千円	・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成	2,411千円	・避難所自家発電施設整備工事	28,317千円	・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)	6,608千円	・津波避難路整備	1,807千円	・緊急自然災害防止対策 (道路防災)	27,693千円	・排水機場長寿命化 (県営事業)	27,079千円	・防災安全社会資本整備交付金事業	124,131千円								
・住宅等耐震改修助成	74,000千円	・防災減災ため池整備 (県営事業負担金)	16,627千円																													
・老朽住宅除去事業費助成	10,000千円	・緊急輸送道路等沿道建築物耐震改修助成	2,411千円																													
・避難所自家発電施設整備工事	28,317千円	・公共施設適正管理推進 (道路長寿命化)	6,608千円																													
・津波避難路整備	1,807千円	・緊急自然災害防止対策 (道路防災)	27,693千円																													
・排水機場長寿命化 (県営事業)	27,079千円	・防災安全社会資本整備交付金事業	124,131千円																													
2 中心市街地・商店街等の活性化																																
1. 中心市街地、商店街等の魅力・賑わいづくり																																
	【商工AP10】 (1) 回遊性と集客力向上のための拠点づくり	○文化複合施設整備事業																														
	◎新たな拠点 (旧土庫銀行跡地) による情報発信の強化と賑わいの創出 ⇒ 連携AP2、連携AP8	○文化複合施設整備事業 ・複合施設実施設計 (繰越分) ・建設工事 (R3/6/30~R5/6/30) ・建設地周辺家屋事前調査 ・市道五月馬渡線他道路詳細設計 ・開館に向けての運営準備業務 (施設設置条例の制定、指定管理者の指定、市民参加の取り組み、プレ事業、開館記念事業の実施等に係る準備業務) 市民説明会1回 (27名参加)、整備検討委員会1回 ・協同整備を行うJAとの連携				四万十市 (生涯学習課・まちづくり課・観光商工課) 商工会議所 商店街振興組合 JA高知県 事業者	◆商店街通行者数 (平日) H27~H30平均: 5,338人/日 →R6:6,200人/日 H31:5,607人/日 R2:5,824人/日																									
	○拠点施設間での連携 ⇒ 連携AP2	○文化複合施設整備事業 ・建設工事 (継続) ・木材製剤及び加工 ・市道 (五月2号線・五月馬渡線) 改修工事 ・開館に向けての運営準備業務 (継続) 市民説明会1回、整備検討委員会2回、市民ワークショップ3回 ・協同整備を行うJAとの連携																														
	○文化複合施設を中心とするまちの賑わいづくり																															

分野 戦略の柱 施策 アクションプラン 主要内容	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
商工業分野					
【商工AP11】 (2) 商店街の機能向上					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心商店街活性化協議会の開催 ○ 商店街空間整備 ○ 情報発信機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月1回 拠点施設を核とした商店街活性化の協議 ・ 商店街広報誌、街のポータルサイト制作 ・ 地域おこし協力隊の配置 (中心市街地活性化1名) R3.10~継続 ・ 中心市街地にぎわい拠点施設維持管理事業費補助金 (1,925千円) 4月 1周年イベント「春のピアガーデン」 8月 子供向けイベント「こともtoナイト」 中心商店街地活性化協議会開催 9月 第71回高知県芸術祭オープニングイベント 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中心市街地にぎわい拠点施設を核とした商店街等活性化事業【再掲】 11月以降 中心商店街活性化協議会開催 	四万十市 (観光商工課・産業建設課・まちづくり課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合 事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 商店街通行者数 (平日) H27~H30平均 : 5,338人/日 →R6 : 6,200人/日 H31 : 5,607人/日 R2 : 5,824人/日 	
【商工AP12】 (3) 日常の賑わいにつながる仕組みづくり					
<ul style="list-style-type: none"> ○ イベント開催等活性化の仕組みづくり ○ 個店のサービス向上 ○ 個性が光る店舗の集積 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商店街活性化モデル事業 (900千円)【再掲】⇒コロナにより中止 (実施主体 : 中村商工会議所) ○ 商店街活性化補助金 (各商店街振興組合) 補助率1/2以内 ○ 商店街等振興計画推進事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> ・ チャレンジショップ事業 (5,706千円) (実施主体 : 天神橋商店街振興組合) ・ チャレンジャー1名営業中 (11月卒業予定) ・ 地域商業の活性化に資する事業 (594千円) (実施主体 : 四万十にぎわい商店(株)) ○ まちなかにぎわい創出事業 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金を活用 補助率9/10以内 補助限度額100万円×連携団体等の数(最大700万円) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小京都ジュニア駅伝 1月実施予定 (実施主体 : 小京都ジュニア駅伝大会実行委員会) ○ 商店街等振興計画推進事業費補助金 <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域資源を活用したまち歩きイベント等の実施 ※コロナにより中止 (実施主体 : 四万十市商店街振興組合女性部) ・ チャレンジショップ事業 (5,706千円) (実施主体 : 天神橋商店街振興組合) ・ 下期チャレンジャー2名出店予定 ・ 地域商業の活性化に資する事業 (594千円) (実施主体 : 四万十にぎわい商店(株)) 事業継続 	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 商店街通行者数 (平日) H27~H30平均 : 5,338人/日 →R6 : 6,200人/日 H31 : 5,607人/日 R2 : 5,824人/日 ◆ 商店街の新規出店数 R6 : 10件/5年 R2 : 5件/年 	
【商工AP13】 (4) 空き店舗対策					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き店舗情報の発信強化とマッチング機会の提供 ○ 空き店舗改修等の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き店舗対策事業補助金 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空き店舗入居者に対する店舗改修費の支援 補助見込 : 2件 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 空き店舗調査 調査方法等について関係機関で協議 市内7商店街振興組合地域の空き店舗調査 ※2月中に実施予定 	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会 商店街振興組合	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 商店街の新規出店数 R6 : 10件/5年 R2 : 5件/年 	
2. 創業や経営革新への支援強化					
【商工AP14】 (1) 経営指導などサポート体制の強化					
<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営指導などサポート体制の強化 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 商工業者経営改善普及事業 (中村商工会議所、西土佐商工会) 商工会議所、商工会、金融機関等関係機関が連携し、経営についてトータルサポート及びワンストップ窓口化 ○ 先端設備等導入計画の認定 <ul style="list-style-type: none"> ・ 認定件数9件 (変更認定含む。認定後は固定資産税の特例措置等の支援あり。) ○ 中小企業振興資金保証料補給 ○ 中小企業振興資金利子・保証料補給 (新型コロナ対策事業) 地方創生臨時交付金による基金を活用 令和2年度借入に対する4年間利子補給及び全額保証料補給 ○ 県事業承継・引継ぎ支援センター発足 (4/1) 構成機関の中村商工会議所が会員向けに要望調査を実施 		四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 創業に関する相談件数 H30 : 30件/年 → R6 : 45件/年 H31 : 39件/年 R2 : 30件/年 	

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)	
			主要内容						
商工業分野									
			【商工AP15】 (2) 創業や経営革新に意欲ある事業者 (人材) の育成、スキルアップ						
			○事業者の育成、スキルアップ	○商店街等振興計画推進事業費補助金【再掲】 ・チャレンジショップ事業 (5,908千円) (天神橋商店街振興組合) チャレンジャー1名営業中 (11月卒業・開業予定)	○商店街等振興計画推進事業費補助金【再掲】 ・チャレンジショップ事業 (5,908千円) (天神橋商店街振興組合) 下期チャレンジャー2名出店予定	四万十市 (観光商工課・産業建設課) 商工会議所・商工会	◆創業に関する相談件数 H30:30件/年 → R6:45件/年 H31:39件/年 R2:30件/年		
3 中山間地域の商業機能の確保									
1. 小さな(田舎)ビジネスの推進									
			【商工AP16】 (1) 集落、小グループが取り組むコミュニティビジネス等の発掘、育成	主要内容 ○事業者、地域等の提案を拾い上げる体制づくり、○地域ならではのアイデア、資源を活かした商品開発⇒ 連携AP 6					
			【商工AP17】 (2) 地域の人、もの、コトの発信	主要内容 ◎地域の人、もの、コトの発信⇒ 連携AP 8					
			【商工AP18】 (3) ビジネスの拠点づくり	主要内容 ○拠点ビジネスの推進⇒ 連携AP 2 ◎道の駅「よって西土佐」の機能拡充⇒ 連携AP 2、連携AP 8 ★四万十市を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP 3					
4 企業誘致									
1. 情報通信関連産業の誘致促進									
			【商工AP19】 (1) 誘致に向けたリサーチ						
			○誘致にかかるリサーチ	○企業誘致対策 誘致企業訪問 (東京) ※コロナにより中止		四万十市 (観光商工課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6:2社/5年 H31:0社 R2:0社		
			【商工AP20】 (2) 誘致活動の推進						
			○県と連動した誘致活動の推進 ○支援メニューの創設・受入体制づくり	○企業誘致対策 誘致企業:ソウルドアウト(株) 立地促進事業費補助金 (交付決定額:6,450千円) 8月 ソウルドアウト(株)との協議 (四万十市)	○企業誘致対策 誘致企業:ソウルドアウト(株) 立地促進事業費補助金 (交付決定額:6,450千円)	四万十市 (観光商工課・農林水産課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6:2社/5年 H31:0社 R2:0社 ◆次世代施設園芸等への誘 致企業数 R6:1社 H31:0社 R2:0社	◆既誘致企業での雇用者数 R6:80名/5年 H31:40人 R2:42人	
			【商工AP21】 (3) 遊休施設等を利活用したシェアオフィス等の整備						
			○シェアオフィス等の整備	○企業誘致対策 8月 県の企業誘致勉強会へ参加 (シェアオフィス等について)		四万十市 (観光商工課)	◆シェアオフィスへの誘致 企業数 R6:2社/5年 H31:0社 R2:0社		

分野	戦略の柱	施策	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
		アクションプラン					
		主要内容					
観光分野							
1 滞在型の観光地づくり							
1. 地域の観光資源、フィールドを活かした滞在型の観光商品づくり							
	【観光AP1】	主要内容	○観光マーケティングリサーチ⇒ 連携AP7				
	(1) 観光リサーチの徹底						
	【観光AP2】	主要内容	○観光商品としての検証と磨き上げ⇒ 連携AP7				
	(2) 今ある観光商品の磨き上げ						
	【観光AP3】	主要内容	○観光商品づくり研修会等の開催、○異業種連携の強化⇒ 連携AP7				
	(3) 新たな観光商品づくり						
	【観光AP4】	主要内容	○食の魅力を活かした観光地づくり、★自然・体験型の観光と歴史や文化、食とが一体となった観光プログラムの造成・発信及び販売○食の発信・普及イベント等の開催⇒ 連携AP11				
	(4) 食の魅力を活かした観光振興		★四万十牛を核とした西土佐地域の産業振興⇒ 連携AP3				
2. 広域連携による周遊観光の推進							
	【観光AP5】	主要内容	○周遊観光プランの造成・発信及び販売⇒ 連携AP7 ○広域連携によるキャンペーンの展開⇒ 連携AP9				
	(1) 広域連携による周遊観光の推進						
2 観光商品の外販の推進							
1. 観光商品のセールス及び情報発信の強化							
	【観光AP6】	主要内容	○営業力のある人材、組織の育成、○旅行会社への営業活動の促進、○旅行商品商談会等への出展、○海外への営業活動の促進⇒ 連携AP9				
	(1) 観光商品のセールス強化						
	【観光AP7】	主要内容	○多様な媒体を活用した広報活動の強化、○ターゲットに合わせたプロモーションの展開⇒ 連携AP9 ○一元的な情報発信の促進⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11				
	(2) 広報・プロモーションの強化		◎産業間連携や広域連携による誘客 (PR) 活動⇒ 連携AP9、連携AP11				
3 おもてなしの向上							
1. おもてなし環境の整備							
	【観光AP8】	主要内容					
	(1) 四万十川流域観光の拠点施設の整備、機能強化						
	○拠点施設の拡充、機能強化	○入田ヤナギ林整備 ・草刈、刈草収集、焼却 (7~9月) ○観光拠点施設整備 ・かわらっこメガサップ、タンデムサップ導入 ・しまんとリバーベキュープロジェクト【再掲】 星羅四万十、よって西土佐BBQ施設整備 ・いやしの里、学遊館、カヌー館空調及びトイレ改修	○入田ヤナギ林整備 ・耕運、木取り (1回)、周辺整備、草刈り、遊歩道整備 (10~2月)	四万十市 (観光商工課) 観光協会	◆公設観光施設等利用者数 H30:162,247人 → R6:170,000人 H31:165,378人 R2:128,018人		
	【観光AP9】	主要内容					
	(2) 二次交通の充実						
	○二次交通の運行形態の見直し・拡充と情報発信	○四万十川バス運行 ・4~3月 年間139日運行 (中村駅⇄沈下橋⇄江川崎駅) GW (4/24~5/5)、土、日、祝日及び夏休み (7/17~8/31の全期間) ○市内循環バス (しまんとトロリーバス) の運行 ・GW、夏休み 58日運行 中村駅⇒宿泊施設⇒郷土博物館⇒佐田沈下橋⇒学遊館⇒中村駅 ○しまんと・あしずり号 ・GW、夏休み、土日祝日等の212日間運行 (四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市) ※新型コロナのため、まん延防止措置に合わせ8/29~9/12運休 ○四万十・足摺バス販売R02.2月~ (通年) ・路線バス、周遊観光バス乗り放題 (3日、5日間) ※短期滞在の外国人のみ利用可 ○予土県境地域連携実行員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・サイクリングの魅力情報発信 ・サイクルトレイン事業	○四万十川バス運行 ・10月、11月及び3月の土、日、祝日と春休み (3/12~3/31の全期間) ○市内循環バス (しまんとトロリーバス) の運行 ・冬休み、3月 (土日) 25日運行 中村駅⇒宿泊施設⇒郷土博物館⇒佐田沈下橋⇒学遊館⇒中村駅 ○しまんと・あしずり号 ・GW、夏休み、土日祝日等の212日間運行 (四万十市→土佐清水市→大月町→宿毛市→四万十市) ※新型コロナのため、まん延防止措置に合わせ8/29~9/12運休 ○四万十・足摺バス販売R02.2月~ (通年) ・路線バス、周遊観光バス乗り放題 (3日、5日間) ※短期滞在の外国人のみ利用可 ○予土県境地域連携実行員会【再掲】 予土県境サイクルツーリズムの推進 ・四万十・南予横断2リバービューライド2021 (10月) ※コロナで中止・他の取組検討中	四万十市 (観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆二次交通利用者数 H30:6,164人 → R6:10,000人 H31:6,513人 R2:3,135人		

分野	戦略の柱	施策	アクションプラン	上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
			主要内容					
観光分野								
			【観光AP10】 (3) 周遊しやすい環境の整備					
			○観光案内機能の充実 ○一元的な情報発信の促進 ⇒ 連携AP8、連携AP9、連携AP11	○四万十市観光協会の案内機能の充実 ・雑誌、新聞、TV等への情報提供、SNSでの発信強化 ・観光案内用タブレットの導入(滞在型の観光地づくり) 【再掲】 ○観光客誘致宣伝活動 ・四万十市観光ガイドブック等増刷、送付など		四万十市(観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会	◆外国人観光入込客数 H30:3,287人 → R6:5,000人 H31:3,473人 R2:461人	◆周遊しやすい環境づくりが進み観光誘客につながっている
			2. おもてなしサービスの充実					
			【観光AP11】 (1) 観光地としての市民意識の醸成と浸透					
			○市民の参画意識の醸成	○地域おこし企業人交流プログラム(ANA総合研究所から1名招致) ・おもてなし向上「接客研修」開催 ○小中学校・高等学校との連携 ・職場体験の受入等(1回) ・ボランティア活動の推進(1回:入田ヤナギ林整備) ○小京都ゆかたDAY、笹飾り・吹流し飾付(7月:14団体、店舗60人参加) ○トンボ自然公園整備ボランティア 花菖蒲整備(5月) ※コロナのため中止 ○紫陽花選定作業ボランティア(6月)	○あったか高知秋のおもてなし一斉清掃の実施(10月:2箇所) ○入田ヤナギ林の整備【再掲】 ・一斉清掃(11月)、花まつり会場清掃、草刈り、遊歩道整備(2月) ○小中学校・高等学校との連携 ・総合学習での講義等 ○トンボ自然公園整備ボランティア スイレン根抜き・草刈り作業(12月~2月)	四万十市(観光商工課) 観光協会		◆観光地であることを広く市民が認識し、おもてなし意識と地域の魅力を伝えられる市民が増えている
			【観光AP12】 (2) リピーター確保に向けた取り組み (特典の充実)					
			○おもてなし感が感じられる仕組みづくり	○地域活性化起業人(地域おこし企業人交流プログラム)【再掲】 ・行政女子プロジェクトチームミーティング 2回実施(リピーターハッチ、Instagram、エコパッパほか) ・小京都ゆかたDAY、笹飾り・吹流し飾付(7月:14団体、店舗60人参加) ・接客セミナー講演会など(3回) ・情報発信(ANA総合研究所のFB掲載4回、Instagram投稿他) ・ONSEN・ガストロノミーウォーキング企画		四万十市(観光商工課) 観光協会 四万十市観光振興連絡会議 西土佐観光推進協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆商工業分野等との連携による多様な仕組み、サービスが生まれている
			4 組織力の強化と観光リーダーの発掘・育成					
			1. 観光関連事業者のスキルアップ					
			【観光AP13】 (1) 観光関連組織の役割分担と組織力の強化					
			○役割分担の明確化とスキル・組織力の強化 ○コーディネーターの育成	○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体:幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・全国ほんもの体験ネットワーク総会(奈良県) ・カヌーガイド養成講座(7~9月 計12回)	○四万十・足摺エリア版DMOによる広域観光推進連携事業【再掲】 (実施主体:幡多広域観光協議会) 地方創生推進交付金を活用 ・四国DC全国宣伝販売促進会議 ・全国ほんもの体験フォーラム(長野県) ・デジタルマーケティングセミナー(4回)	四万十市(観光商工課) 観光協会 幡多広域観光協議会		◆観光人材・組織のスキル(商品企画、営業力等)が向上し、観光誘客の拡大につながっている ◆観光協会の案内機能 R6:強化
			【観光AP14】 (2) 異業種との交流・連携の促進	主要内容 ○異業種連携の強化⇒ 連携AP7				
			2. 観光人材の育成、確保					
			【観光AP15】 (1) 地域の観光リーダーの育成					
			○地域のキーマンの発掘、育成	○四万十市体験型観光受入研究会 ・藤澤アドバイザーによる研修会(9月)		四万十市(観光商工課・関係課) 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会	◆教育旅行受入家庭数 H29:49軒 → R6:65軒 H30:50軒 H31:48軒 R2:52軒	◆地域で核となる観光人材が育成されている

分野		上半期の取り組み状況 (数量的に見える形で具体的に記載)	下半期の取り組み予定 (内容を具体的に記載)	主な事業主体	定量的な目標 到達点 (R6) 実績 (直近)	備考 (定性的な目標、課題など)
戦略の柱						
施策						
アクションプラン 主要内容						
観光分野						
	【観光AP16】 (2) 将来の担い手の発掘・育成					
	○インストラクター、ガイドの育成 ○ボランティア等の受け入れ	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 ・全国ほんもの体験ネットワーク総会（奈良県）（7月） ・藤澤アドバイザーによる研修会（9月） ・田舎暮らし体験受入等について（意見交換）（5月、8月） ○リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～関連【再掲】 ・観光ガイドミーティング（2回）、LOILOIしまんと個別勉強会 ○トンボ自然公園整備ボランティア 花菖蒲整備（5月） ※コロナのため中止 ○紫陽花選定作業ボランティア（6月）	○四万十市体験型観光受入研究会【再掲】 ・全国ほんもの体験フォーラムin南信州（3月） ○リョーマの休日～自然&体験キャンペーン～関連【再掲】 ・観光ガイドミーティング ○トンボ自然公園整備ボランティア スイレン根抜き・草刈り作業（12月～2月）	四万十市（観光商工課） 観光協会 幡多広域観光協議会 四万十市体験型観光受入研究会		◆観光人材の育成、レベルアップが図られている ◆観光の担い手確保につながっている